

平成 27 年度第 1 回阿南町総合教育会議議事録

日 時：平成 27 年 8 月 20 日（木） 13 時 10 分から 14 時 14 分

場 所： 阿南町役場協議会室

平成 27 年度第 1 回阿南町総合教育会議次第

- 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 「阿南町総合教育会議」の運営について
 - 4 協議事項
「阿南町教育大綱」の策定について
 - 5 意見交換
阿南町の教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策について
 - (1) 子どもの教育振興に関すること
 - (2) 文化の振興に関すること
 - 6 閉 会
-

《出席構成員》

町 長	勝 野 一 成
教育委員長	佐 々 木 進
教育委員長職務代理	金 田 修
教育委員	小 林 睦 則
教育委員	猪 切 信 子
教育長	南 嶋 俊 三

《事務局》

総務課長	松 澤 享
総務課行政係長	勝 又 司
総務課行政係主事	最 賀 哲 司

《出席職員》

教育委員会事務局長	伊 藤 明
〃 社会教育係長	大 平 正 章
〃 子ども教育係主査	小 林 由 美

1 開 会

<13時10分>

○ 松澤総務課長

皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから平成27年度の第1回「阿南町総合教育会議」を始めさせていただきますと思います。

私は、今回の進行を務めさせていただきます総務課長の松澤と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、最初に阿南町長がごあいさつ申し上げます。

2 あいさつ

○ 勝野町長

本日は、大変お忙しい中、阿南町の第1回総合教育会議へ足をお運びいただきまして誠にありがとうございます。

委員長さんをはじめ皆様におかれましては、日頃、教育のために大変なご尽力をいただいていることに心からお礼申し上げます。

ご承知のように、地方教育行政の組織や運営に関する法律が改正されまして、町長と教育委員会が教育に関する協議や調整をする総合教育会議を開催することとなったわけがあります。

本会議は、教育に関する問題や課題を共有しながらいい方向に持っていくという目的で設置されたということでございます。私も皆さんと一緒に、阿南町の教育につきまして前へ進めてまいりたいと思いますので、そんなことをお願い申し上げまして私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、大変お世話になりますがよろしくお願いいたします。

○ 松澤総務課長

続きまして、佐々木教育委員長からごあいさつをお願いいたします。

○ 佐々木教育委員長

改めてこんにちは。第1回の総合教育会議にあたりまして、阿南町教育委員会を代表して一言挨拶申し上げます。

勝野町長におかれましては、日頃から教育委員会に対しまして大変温かいご理解とご支援をいただいていることを心から感謝申し上げます。

新教育委員会制度が発足しまして、いろいろな課題があるわけではありますが、総合教育会議の設置により町長と協議を深めることが増えたことは大変ありがたいことであります。

そして、本会議の意義というのは、総合の2文字に表れておるかと思えます。教育と行政の総合ということでもあります。それぞれの視点から新しい風を入れていただき、阿南町の教育がより良い教育になり、又、素晴らしい教育委員会となりこの総合教育会議が有意義な会議となるよう努力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○ 松澤総務課長

ありがとうございました。

3 「阿南町総合教育会議」の運営について

○ 松澤総務課長

それでは、レジメの3番の「阿南町総合教育会議」につきまして、教育委員会事務局の伊藤の方から説明を申し上げます。

○ 伊藤教育委員会事務局長

それでは、3の阿南町総合教育会議の運営につきまして、お手元の資料No.1に基づきましてご説明させていただきます。

総合教育会議の概要をご覧いただきたいと思います。別紙にあります本会議の設置趣旨ではありますが、町長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り本町教育の課題及び目指す姿等を共有しながら同じ方向性の下、連携して効果的に教育行政を推進していくため、「阿南町総合教育会議」を設置するというものになります。総合教育会議設置要綱を掲載してございます。併せてご確認をいただきたいと思います。

総合教育会議で協議すべき事項、事務等につきましては、そこにアからウまでの内容になっておりますので後ほどご覧いただきたいと思います。

なお、本日のレジメの裏面に構成員の名簿を載せてございます。法律で地方公共団体の長と教育委員ということで決められていますので記載のとおり6名で構成させていただきます。

平成27年度は、本日を含めて年度内に2回の会議を予定させていただいております。第2回目につきましては11月をお願いしたいと思います。例年、この時期に教育委員会では、町への要望ということで町長さんをお招きして懇談会を開いていましたが、今年度以後は総合教育会議として、来年度の教育関係施策及び予算等についての協議及び意見交換をお願いしたいと計画しておりますのでよろしくお願いいたします。

○ 松澤総務課長

ここで、本会議の議事録の公表につきまして、事務局からご説明申し上げますのでよろしくお願いいたします。

○ 勝又行政係長

総務課行政係の勝又です。よろしくお願いいたします。

それでは、議事録の公表について、ご提案させていただきたいと思います。総合教育会議の議事録は、法律により公表することが規定されています。

なお、公表する議事録につきましては、事務局で案を作成いたしまして全ての委員の方に確認していただいた後、各委員の皆様に配布させていただくとともに、阿南町のホームページなどで公表することにしたいと思います。

また、公表内容につきましては、発言者の氏名も含めまして公表とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

○ 松澤総務課長

ただいま、議事録の公表につきまして、ご提案させていただいたところでございますが、提案の内容で進めさせていただくということでよろしいでしょうか。

○ 全員

異議なし。

4 協議事項

「阿南町教育大綱」の策定について

○ 松澤総務課長

続きまして、4の協議事項に移らせていただきたいと思います。「阿南町教育大綱」の策定について、南嶋教育長からご提案がありますのでよろしくお願いいたします。

○ 南嶋教育長

それでは、「阿南町の教育振興に関する大綱」を定めることにつきまして、私の方からご説明とご提案を申し上げます。

資料No.2 A 4とA 3が用意されておりますので、ご覧をいただきたいと思います。

新しい教育委員会制度では、地方公共団体の長は国の教育振興基本計画を参酌して、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱を定めるものとされております。そして、大綱を定めるときには、今回の総合教育会議において協議するものとされています。

本日の総合教育会議で、大綱についてご協議をいただきたいところではありますが、当町では、一昨年、「阿南町教育基本方針」を半年かけて定例教育委員会で協議し定めております。

そこで、提案でございますが、当面の間、この教育基本方針を持って大綱に代えるとするものでございます。この提案につきまして、町長さんが本日の総合教育会議において教育委員会と協議・調整して決定していただければと思います。

資料A 3の「阿南教育大綱(案)」をお示ししてありますのでご覧いただきたいと思います。お諮りのとおり教育基本方針には、教育に関する理念、次に方針、目標、それから幼児教育、それから学校教育、社会教育という各分野における方針、重点、並びに重点施策が盛り込まれておりますので参考にさせていただきましてご協議いただき大綱を決定いただきたいと提案申し上げます。

○ 松澤総務課長

今、教育長の方から提案を申し上げたところでございますが、この件につきまして何かご質問、ご意見等はおありでしょうか。

○ 佐々木教育委員長

ただいまの教育長の説明のとおり、けっこうだと思います。大綱につきましては、教育振興基本計画に定めている場合には、当該計画は大綱に代えることができるというようにされておりますが、阿南町では教育振興基本計画は定めておりませんが、先ほどの説明のとおり「阿南町教育基本方針」を定めておりますので、この総合会議で協議、承認されれば、「阿南町教育基本方針」が「阿南町教育大綱」に代わるということでよいかと思えます。

○ 松澤総務課長

他にご意見は、ございますか。

○ 全員

ありません。

○ 松澤総務課長

それでは、ないようですので提案させていただきましたとおり、「阿南町教育大綱」につきましては、当面の間、「阿南町教育基本方針」をもって代えるということによろしいでしょうか。

○ 全員

けっこうです。

- 松澤総務課長
ありがとうございました。異議なしということで「阿南町教育基本方針」を代えるという
ことで決めさせていただきました。
以上で、協議事項を終わらせていただきたいと思います。
- 佐々木教育委員長
ただいまの協議事項は一つにつきましては、設置要綱の第2条の第1項に基づいていま
すが、第2項、第3項につきましては、本日の協議事項にはありません。特に第3項につ
きましては、児童・生徒の生命、又は、身体に現に被害が生じ、又は、まさに被害が生ず
るおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置ということで、これは、
明日起こるか今日起こるかいつ起こるかわからない問題であります。迅速な対応、責任の
明確化というようなことで教育委員会の改革にも繋がったわけでありますので、手続きは
できるだけ早く作っていただければと思います。
- 伊藤教育委員会事務局長
第2項につきましては、次の意見交換の中でお願ひします。
実際に起こった場合につきましては、対応マニュアルのようなものを作る必要があると思
います。
- 佐々木教育委員長
緊急の場合ですので、マニュアルの作成をお願いします。

5 意見交換

阿南町の教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策について

- 松澤総務課長
続きまして、5の意見交換の方に入らせていただきたいと思います。本日の会議は、第
1回目ということで、表題は、設置要綱に定める大きなテーマとしてありますが、日頃、
感じておられることを忌憚のないご意見、ご発言いただきたいと思います。思っております。
限られた時間ではありますが、町長との有意義な意見交換の場とさせていただきたくため
に、皆さんのご意見をお願いしたいと思います。

(1) 子どもの教育振興に関すること

- 松澤総務課長
最初に、子どもの教育振興に関することをテーマとして意見交換をさせていただけれ
ばと考えております。挙手をさせていただいて発言の方をよろしく申し上げます。
- 佐々木教育委員長
学校教育におきましては、児童生徒が集団の中で多様な考え方に触れ認め合い、協力
しあい切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質と能力を伸ばしていくことが重要で
あるとされております。昔は、踏まれても強くなるよう「麦のようになまく成長し
なさい。」と言われてました。事実、社会の荒波に出ていくにと挫折するようなことがよく
あります。
そこで、「知・徳・体」のバランスのとれた、そして社会に対応・順応できる逞しい子
どもになってほしいと思っております。今、人口減少・少子化の中で地域の学校の維持
が難しくなっております。阿南町の子どもも地域の特性を活かしながら同じような環境

で平等な教育を目指してやりたいと思うわけであります。

各学校には、保護者や地域住民が学校運営に参加するコミュニティスクールがあるわけですが、これらの組織等を母体として将来について話し合っていくことも大事だと思います。

○ 金田職務代理

当町に限らず、全国的な傾向として人口の減少に伴う児童生徒の減少の傾向は、近年、特に進んでいる感じがします。そのような中で、子どもたちをどのような方向で伸ばしていくのがいいかという大きな問題について、そう長い将来ではなくて近々に考えていかなければならないと思っています。

今後、大きな観点に立ってこの問題をどう考えていったらよいか、又、どのような方向で進んでいくのがこの子どもの将来にとって一番いいか、いろんなところでお話してその中で一番いい方向を模索しながら真剣に考えていく時期が来ていると思いますので、教育委員として一所懸命考えていきたいと思っています。

○ 小林委員

教育という範囲も広く、いろいろな観点・視点があり、一言では難しい面もあるかと思っています。大きく言えば、人口のことであったり、学校や地域とかの学校環境であったり、そういう観点・視点などがあつたりするかと思っています。

日頃、思うことは、一度は町を離れたとしても戻って来られれば理想なのでしょうけれど、それはともかく地元とのかをよく勉強し、例えば公民館活動においても子どもたちが参加できるような活動などを通じて、もし戻って来られなかったとしても町を気にかけてもらえるような地域を愛する子どもたちを育ていけたらいいのかなと思っています。

先日の成人式の意見発表・町への提言は、若い方なりにいろいろ考えてらっしゃるのだなというのが印象です。私たちも大勢の方の意見を聞きながらこれからも一所懸命努めていきたいと思っています。

○ 猪切委員

今までの委員の方と同意見です。自分の経験から幼稚園から小学校へ上るとき、そのときのドキドキ感というか、新しい友だちとふれ合うときの本当に心配な面やら期待する面というのを今でも思い出します。それから小学校から中学へ上るとき、中学から高校に上がるときに、新しい友だちに出会うことをドキドキしながら楽しみにしていたという経験がものすごく大事なあとだと思います。

先ほどもおっしゃられたように社会の荒波に立ち向かっていくといったとき、大きな集団の中に自分の身を置くことができずに苦労してしまうという子どもたちを見ていますので、いろんな形で新しい人たちと出会うきっかけが早いタイミングで設けられたらいいのかなあとと思っています。

それから、町の教育大綱の中で、一番は学力の向上ということを目指しているわけですが、学校ってというのは全て先生が教えるということではなくて、子どもたち同士が学び合うというのがとても大きな結果に繋がってくると思います。それは、少人数の中で競い合うことではなく、大勢の中でお互いに意見を戦わせながら、先生が教えてくれる以上に友だち同士で学び合っていくということが本当に真の学力に繋がっていくものと経験として感じていますので、やっぱり早いタイミングで大勢の人たちの中で自分を磨ける環境っていうのを作ってやればいいなあとと思います。

○ 南嶋教育長

この場で、町長さんとういうふうに話ができるということは、非常にありがたいこととであります。常々、私も町長さんと膝を交えてお話をしたいなあと思っていましたの

で、この総合教育会議というのは、非常に有意義だなあとということをまず思います。ありがたく思っております。

先ほど、大綱をお認めいただきましたが、阿南町の子どもをどのような大人に育てていくか考えながら教育方針を作ったわけでございます。

特に、阿南町の教育スローガン「学力・考動力の向上を目指す町—あなん」に出てくる「考動力」の考えて動く力、これは、学力というとすぐ知識、教科の知識的なものについてしまいがちですけど、阿南町の場合はそうではなくて、考えて動く力、要するに考動力を身につけることによってやる気、意欲を出させ、そういうところからの学びというものがあらゆる面に繋がり、将来に向かって必要なのだという意味の造語で、阿南町では、「考動力」という言葉を使っておるわけでありまして。ですから、教科の学力だけじゃなくて、あらゆる面で生きていく上での学力、そういうようなものを身につけさせてあげたいというのが、阿南町の教育方針でありスローガンでもあります。

そのためには、4者、家庭・地域・学校・行政が一緒になって歩調を合わせ同じ方向に向いて子どもたちを育てていかないと、阿南町で考えておる子どもはでき上がっていかない、育っていかないと思います。是非、今、申し上げた「考動力」を中心とした子どもの育成・学びというものを培ってもらいたいと思っております。この阿南町の教育方針の「考動力」は、10年、20年、50年かかるだろうと思っております。そんな意味で、地道に子どもたちを育てていく方向でお願いしたいと思っております。

もう一つ、先ほど、ご意見がありましたけれども、やっぱり少子化、小規模校、少人数学級については、目を向けていかなくてはと思っています。この少人数学級の中での少人数での学びというもののメリット、デメリットをよく理解したうえで、議論を要すると思っております。先ほどどなたかがおっしゃいましたが、将来の社会人、職業人として、社会、職業で貢献できる若者を育成するには、どうあるべきかを議論を尽くしていきたいとそんなことを思っております。

○ 勝野町長

非常に今の大綱は、いろんな面で立派ですしそういう点ではいいと思っております。

私の感じておるところですが、単純に申し上げますと、日本が非常によくなりすぎた、これ以上ない状況になって、いわゆる不足しておるとか苦労してこれを何とかしなくてはならないというのがなくなって、全てが与えられるという状況が今、現実としてある、そのことが結局社会も学校もそうだけど、皆そういう中で生活をして育ってきたことが逆に今、求めておる人間形成ができなくなった原因だという気がしております。

そういう意味で、昔は、地域が口を挟んで地域が育ってくれたということが非常に大きかったという気がするけれど、そういう地域だとか親にしても学校にしても言ってみれば無縁社会化というのが大変進んで来ているような気がします。昔のつながりは、そういう有縁社会の中で、非常に面倒をみてもらって育ててもらったものですが、この頃では、隣近所も親戚も無縁化してきたと思っております。こういうことが、日本が今、順風満帆になった原因だと、そう考えるとやっぱりそういうことがすごく不足してきた原因だと思っております。

それから、あまりにも豊かになりすぎた、全て自由になる、言うとおりになる、そういう中で、やっぱり一つは苦しいとか、悲しいとか、えらいとかいうものを、それでもそれを何とか乗り切って進めていくという気力、体力そういうところから作っていかないと、これから社会を支えていける人間はできていかないと思っております。そういう意味では、スポーツというものの中でそういうものを作りあげていく必要がある、スポーツには、少なくとも礼儀作法はあるし、又、汗をかいて歯を食いしばって頑張る、競争しなければならぬ、そういうものがみんな含まれておる部分があるので、そういうところからの学校での教育や地域の「協力教育」そういうものが必要であると常々思っております。戦後70年でここまで来たので、元に戻すには、又、70年かかると思うけれど、金ですぐ買える話ではないし、非常に大事な話であって非常に難しいことだと思っております。

今、申し上げたようなことを考えますと、やっぱりいろいろな精神面においても、ある程度的人数の中で切磋琢磨してそういう中で育っていかないと、今、申し上げたような社会人というのはできていかない、ゆとり時代の教育が良くなかったと言う人がおりますが、この間、テレビを見ていたら、猫が目の前に飛べなくなった雀を捕らない、満々という餌を与えられて肥えてしまい横を向いておる、全て満たれておる、猫でさえもそういう世の中になってしまったと、そういう中で、やっぱり厳しいとか汗をかくとかそういうことは必要だと思うし、そういう中である程度的人数で競っていくというところがないと駄目ではないかと感じております。

○ 松澤総務課長

今、それぞれの委員さん、教育長、町長の方からご意見をお聞きしたわけですが、それぞれのご意見を踏まえてご意見をお願いいたします。

○ 勝野町長

(町内の)施設長が話してくれたけれど、「野球部出身の新人は違う。礼儀から仕事ぶり、動きまで違って驚いておる。」と、野球部は、上下関係が厳しくて育つためかそういうものが培われて社会人になったときに出てくる、野球部が全ていいというわけではないけれど、一理あると思っております。

○ 南嶋教育長

私も小さい頃から若い頃に鍛えられると、それなりにそういうものが出てくると思います。

(2) 文化の振興に関すること

○ 松澤総務課長

最後に、文化の振興策に関してご意見をお願いいたします。

○ 佐々木教育委員長

8月17日、町の教職員研修会において、町出身の筑波大学院准教授渡邊佐知子先生が富草の化石の講演をされました。その中で、先生が海外に化石採集に行ったとき、必ず「あなたの出身は、どこですか、どんなところですか。」と聞かれて、意外と自分の国やふるさとを知らなすぎると反省し、それ以後は、「私のふるさとは、こんなところですよ、あなたのところは、どんなところですか。」と言えるように心掛けていると話しておりました。

私も、日本やふるさとのことを詳しく説明できません。阿南町には、伝統芸能あるいは伝統的な祭り等素晴らしいものがいっぱいあるわけでありまして。まず、自分自身でこれらを知り触れ合い、愛着を持ち誇りにして、こんなところであり、こんな良いものがあるのだとピーアールをしていかなくてはならないかと思えます。

町文化財等を写真に収めてケーブルテレビで放映をしたり、祭りのDVDを放映したりして、町民に広く知らしめて多くの人に知ってもらい、地域文化の裾野広げていけたらと思っております。

○ 金田職務代理

先ほど申し上げたことと文化・芸能に関しても同じことが言えるかと思えます。新聞等で既に皆さんご承知のことと思えますが、7月30日に滋賀県甲賀市で「全国高校総合文化祭」が行われ、その郷土芸能部門に長野県代表で初出場した阿南高校の郷土芸能同好会が国の重要無形文化財新野の雪祭りを発表し大変好評であったということでありまして。

このようにやっぱり勉強・学力も大切ですが、この郷土の良さ、故郷の良さは、こういうお祭りとかを伝承することによってより強く心に浸み込んでいってくれるものと思います。ご承知のように国の重要文化財がこの小さな町に三つもある、こんなところは、全国的にもないわけでありまして、いかに大人からその子どもまでが郷土芸能が好きで雪祭が好きで熱心に練習をしているということが発表されたわけでありまして。一旦は、都会に出てもこの新野の良さを忘れることができず、又、戻ってきて活躍したい、伝統文化・芸能文化を保存伝承していきたいという気持ちになっている証ではないかと思えます。

新野には、祭りの伝承を目的とした「郷土芸能子ども教室」があり、小学5年生から中学3年生までを対象に年20数回開催しております。大変出席率もよくいきいきとして練習し、子どもがあるがゆえに覚え方もとても早いわけです。大人がなかなか覚えられない舞いでも笛でも太鼓でもあつという間に覚えてしまうというほどびっくりするほどの子どもの習得能力の高さ、それが、又、好きに繋がる、滋賀県で発表してきた子どもたちは、自主的に農村文化伝承センターに来て非常に熱心に練習をしておりました。本当に若い情熱で文化伝承に燃えているような気がしました。

将来、阿南町に帰ってきてもらうための方策として、この芸能文化があると思います。今では、高校生・中学生を入れなければ祭りの体をなさないほど地域が頼りにしているような状況です。こういうものを大切に大事にしていってまいりたいと思います。

○ 小林委員

学術も含めて、阿南町の西尾實記念館とか、芸術は彫刻や絵画もたくさんありますので、児童も生徒も含め大勢の方に見てもらうために、そういった雰囲気ですとか地域を開き起こして理解を深めていくことが大事じゃないかなと思っております。

文化でいえば町民憲章ですか、その中に「教育を重んじかおり高い文化の町にします」とあると思います。先ほどの子どもの教育にリンクしてくるのかわかりませんが、各所においても歴史や文化・文化財があるわけで、歴史や文化・文化財を私たち大人も学んで継承していければいいのではないかなと思っております。

○ 猪切委員

先ほど、金田委員がおっしゃったことですが、正に我が家では、今年も盆踊りのとき、家を離れていた子どもたちが帰ってきて、浴衣を着て小さい頃から身につけた踊りを踊っていました。私たち世代も結構踊っていると思いましたが、若い親世代のお父さんお母さんたちがいないな、踊っていないなっていうのも毎年、思います。私たちは、三日三晩というわけにはいかなかったですが、本当に踊ることを楽しみにしています。

それから、小林委員がおっしゃったのと全く同じですけど、美術館・西尾實記念館等掘起こしをしなればいけない財産がたくさんあるなあということを改めて思いました。まず、どこに何があるのかっていうことを人的にあてがって発掘して、それをまず町民に示し本当にいい文化がありますよということをアピールする必要があると思います。さらに、町外に発信して、阿南町に足を運んでもらえるような仕組みを作っていけたらいいと思います。

○ 南嶋教育長

文化の振興ということですが、阿南町と言えば伝統文化・祭りというように出てくるのが、普通ではないかと思えます。伝統文化については、充実させてまとめていく、そして外へアピールし、観光振興と連携しながら表に出していくことが必要ではないかと思っております。

それでは、教育委員会は何をするか、頭に浮かんでくるのは、こういうものを子どもたちや若者に、小さい頃からいろんな学校教育の中で、授業とかそれから部活動とかを用いて、祭り、伝統文化それから偉人的な者、有名な人について学ばせていく必要があ

と思います。自分の地域を知識として知るということ、先ほど委員長の方からお話がありましたように、要するに地元のことを知るということが、まず先決ではないかなという意味で先ほどの授業や部活、総合的な学習とかを通して学ぶ必要があるというのが一つあります。

それから、もう一つは、すぐ学習できるきっかけになるような冊子だとかパンフレットみたいなものを作っていく必要があります。文化財審議委員会がありますし、社会教育委員の方もいらっしゃいますので、そういう方々のノウハウや知識を表に出していくことが必要であり、それらの活用を教育委員会で考えてく必要があると思っております。

最後に一つ、博物館、美術館、資料館、西尾實記念館、それから化石館などハード的なものもたくさんあるわけで、町長さんもいろいろ考えておられるようですが、教育委員会としても町長さんと話し合いを持ちながらどういうふうな町づくりがベストなのか考えていきたいと思っております。

○ 勝野町長

皆さんのおっしゃるとおりだと思います。後継者がいなくなるという中で今の状況を見るとやっぱり「三つ子の魂百まで」かと、盆踊りは夏休みで帰って来やすいというけれど、雪祭りは、1月14日が平日だろうが何だろうがその日に雪が降っても帰ってくる、雪まつりをやるためにあの寒い中へ、そんなことまでもしなくてもいいと思うがそれが癖になっている、それが教育であり「三つ子の魂百まで」だと思います。やっぱり学校や地域が一緒になってやっていくことが、必要だと思います。そして、又、そういうことに金がかかっても行政がそういうことをみていくべきだと思います。

又、この間、ある人がおっしゃられましたが、うちの行政は、宣伝が欠けておると、私もそう思うけれど、これを単純に考えると、一同に實記念館、美術館にある物や化石館の化石もそして祭りは、ある程度一つのところで順を追ってみることで、富草・大下条・和合・新野というものが一つの場所で情報が得られるようなそういうものをやっぱり整備する必要があると思います。今、これらの施設が機能していない、そういう中で、そういうものを造って地元もそこで一連で見ることができ勉強ができる、又、町外の人もお立ち寄りいただいて見ることができる場所を国道沿いの平なところへ一まとめに造らないと駄目だと思います。これは、今の時期でなければできればできない、今やらなければどこかで踏み切らなければと思っております。道路が、文化や経済の源というか、影響が大きい、道路というのは、道路があるかないかで経済や文化も衰退してしまうし、新たのものができるとそこへ人が流れて人が集まる、そういう点でもそういうものを造るべきであると考えております。

それから、今、祭りを熟知しておる大人が健在なうちに、「三つ子の魂百まで」の人たち育てていってもらわないと駄目になってしまう、それには、やっぱり学校や行政や地域が一緒になってこうそれに向かって協力する、そこにお金がかかるというのなら出してもいいと思います。今、教えられる人がおるうちにそういうことを計画してもらいたいと思っておるし、子どもたちがこういうことから育っていくのだということをおわかっていただければと感じております。

○ 松澤総務課長

今の委員さん等、町長の発言を踏まえてまだ他に感じるところがありましたらお願いいたします。

○ 南嶋教育長

今、町長さんがおっしゃられましたが、知識や経験のある方がまだご健在のうちに何とかしなければいけないと思います。先ほども申し上げましたが、いろいろ審議していただき取り組んでいただいて、阿南町の主にある文化財については、文化財マップ的なところを含めた冊子を作ってもらいたいと思っております。

それから、各学校では、校外学習で歴史とか文化財とかいろんなところ回っていて、そのような総合的な学習や社会科の授業が最近多くなってきたという感じを受けております。

○ 松澤総務課長
他にどうでしょうか。

○ 全員
ありません。

○ 松澤総務課長
それでは、本日は、1回目ということで取りまとめは行いませんが、冒頭申し上げましたように年2回ということで、又、11月頃計画をさせていただきたいと思っております。又、それに向けての本日の意見を活かしていきたいと思ひますし、教育行政の推進等に反映させていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

6 閉 会

<14時14分>

○ 松澤総務課長
それでは、これをもって第1回総合教育会議の方を閉会とさせていただきます。本日は、どうもありがとうございました。